

実践事例5

「人とのつながり」から考える「命」

県立姫路聴覚特別支援学校

1 テーマ

「人とのつながり」から考える「命」

2 実践のねらい(各学部のねらい)

小学部・家族や友達とのふれあいをとおして人とのつながりを感じさせる。

- ・一人一人の命の尊さ、自分の命の重みについて気づかせる。
- ・自分が家族から大切にされて成長してきたことに気づかせる。

中学部・相手を理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする気持ちを育てる。

- ・異性に対して理解を深め、思いやりの心を育てる。
- ・障害に対する認識を自分自身の問題として受け止める。

高等部・社会で生きていくための社会性を育む。

- ・自分の気持ちや考えを、相手や場に応じたコミュニケーション手段を使い適切に伝える。
- ・命の大切さを実感させる学習および体験をする。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、保育相談部・幼稚部・小学部・中学部・高等部・専攻科があり、0歳から20歳までの聴覚障害のある子どもたちが在籍している。本校の児童生徒のみならず通級指導や難聴児童生徒への教育相談など、播磨地区を中心とした聴覚障害教育のセンター的役割を担っている。聞こえにくいという障害の受容、豊かな言語力の習得、こころ豊かにたくましく生きぬく力の育成を教育目標に、個々に応じた系統的な学習支援を実践している。

本校の子どもたちは、聴覚に障害があるが、素直で明るく、のびのびとした学校生活を送っている。一方、個々の障害の程度や発達状況、能力等が異なるため、個々の実態に応じた教育が必要である。聴覚障害のみの者だけでなく知的障害や自閉症等の他の障害がある者も在籍しており、細かな配慮を必要とする者が多い。また、小学校に入学したのち、高学年になって本校に転入してくる児童生徒も多く、基礎学力の定着が厳しい者や、自己受容ができず心の問題のある者もいる。

これらの児童生徒一人一人が学校での活動、地域活動、交流学習等、多くの人々とのふれあいの中で、自己を受容し、他人を思いやり、共感的理解と信頼関係を深め、命と人権を大切にすることを育んでいくことが大きな目標になっている。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・家族とのふれあいをとおして、自己存在感をもたせる。
- ・自分の気持ちを素直に表現することにより、分かり合えることを感じさせる。
- ・生命誕生の素晴らしさや命のかけがえのなさを実感させる。
- ・自分の命は多くの人々の支えによって誕生し、周りの人の愛情に包まれて育てられたものであることに気づかせる。
- ・同じ障害がある者どうしや同世代の生徒どうしで、励まし合い助け合う気持ちを味わう。
- ・戦争の悲惨さを知り、命の大切さを感じとる。

【感性を育む】

- ・友達のいいところを尊重することの大切さに気づく。
- ・自分の素直な気持ちをきちんと伝え、それを受けとめてもらう満足感を感じさせる。
- ・自分を大切にすることは、両親や家族、周りの人の願いであることを実感させる。
- ・お母さんのお腹の中で育っていく命の神秘さと尊さに気づく。

「人とのつながり」から考える「命」(県立姫路聴覚特別支援学校)

- ・ 友達の「好み、興味、関心」を知ることにより、友達に共感し、より深く知りたいと関心を深める。
- ・ 障害のある方で、現在活躍されている方の体験談を聞き、障害といかに向き合って生きていくかを考える。

【想像力の育成】

- ・ 聞こえる人、聞こえない人両方の立場を思いやりながら、分かり合おうとする。
- ・ コミュニケーションがうまくいかないときに、自分の言動を振り返り、友達の気持ちを想像させる。
- ・ 誕生を待つ母親や家族の気持ちを想像する。
- ・ 自分が好きなこと、やりたいことについて語る。
- ・ 世の中には様々な困難を抱える人が生きていることを知る。今後、どのようなユニバーサルデザインがあれば良いか、考える。
- ・ 将来の社会生活で協力し合える関係を考える。
- ・ 自分自身が社会に役立つ存在であることを認識する。
- ・ 災害時や緊急時を想定して、その場で困っている人のために何ができるのか考えることができる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・ 教員自身が自尊感情を高める体験や、自己再発見の体験をしておく。
- ・ 授業だけでなくすべての教育活動の中で命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・ 教員自身が人生の振り返りを行い、命に対する深い感覚を子どもたちに伝えていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・ 現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、事前事後の個別指導を充実させる。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・ 特別活動
- ・ 総合的な学習の時間
- ・ 保健体育

(3) 子どもたちの準備

- ・ 子どもどうしが共感し合えたか振り返る。
- ・ 一人一人の命の尊さ、自分の命の重みについて振り返る。
- ・ 自分の誕生に関して、これまで聞いたことなどについてまとめる。
- ・ 障害に対する認識を自分自身の問題として受け止めているか振り返る。
- ・ 大きな集団で学習することの楽しさや緊張感等を味わい、自分をどう発揮し、コミュニケーションの力を高められたか振り返る。
- ・ 相手を思いやる気持ちや、感謝を表そうという気持ちをもてたか振り返る。
- ・ 沖縄の自然・歴史・文化を学ぶことによって、その特徴についてまとめる。

5 本校の実践の特色

- (1) 自らの障害による困難を改善・克服して「生きる力」を育てる学習活動。
- (2) 一人一人の状態、障害の程度に合わせた指導。
- (3) 生命の誕生に関心をもったり、感動したりする体験をとおして、自らの誕生を振り返って、かけがえのない自分の命だけでなく、他者や小さな命を慈しみ大切にしようとする心情や態度を育てる学習活動。
- (4) 主体的に生きることができるとともに、心の通い合う適切なコミュニケーションの手段を学ぶ。
- (5) 自分の成長を実感することによって、成長を支えてくれた周囲の人たちへの感謝や思いやりの心を育てる。
- (6) 障害に対する認識を自分自身の問題として受け止める学習活動。
- (7) 戦争体験者から話を聞き、沖縄南部戦跡やガマを見学することで、「命の大切さ」について実感させる体験学習。

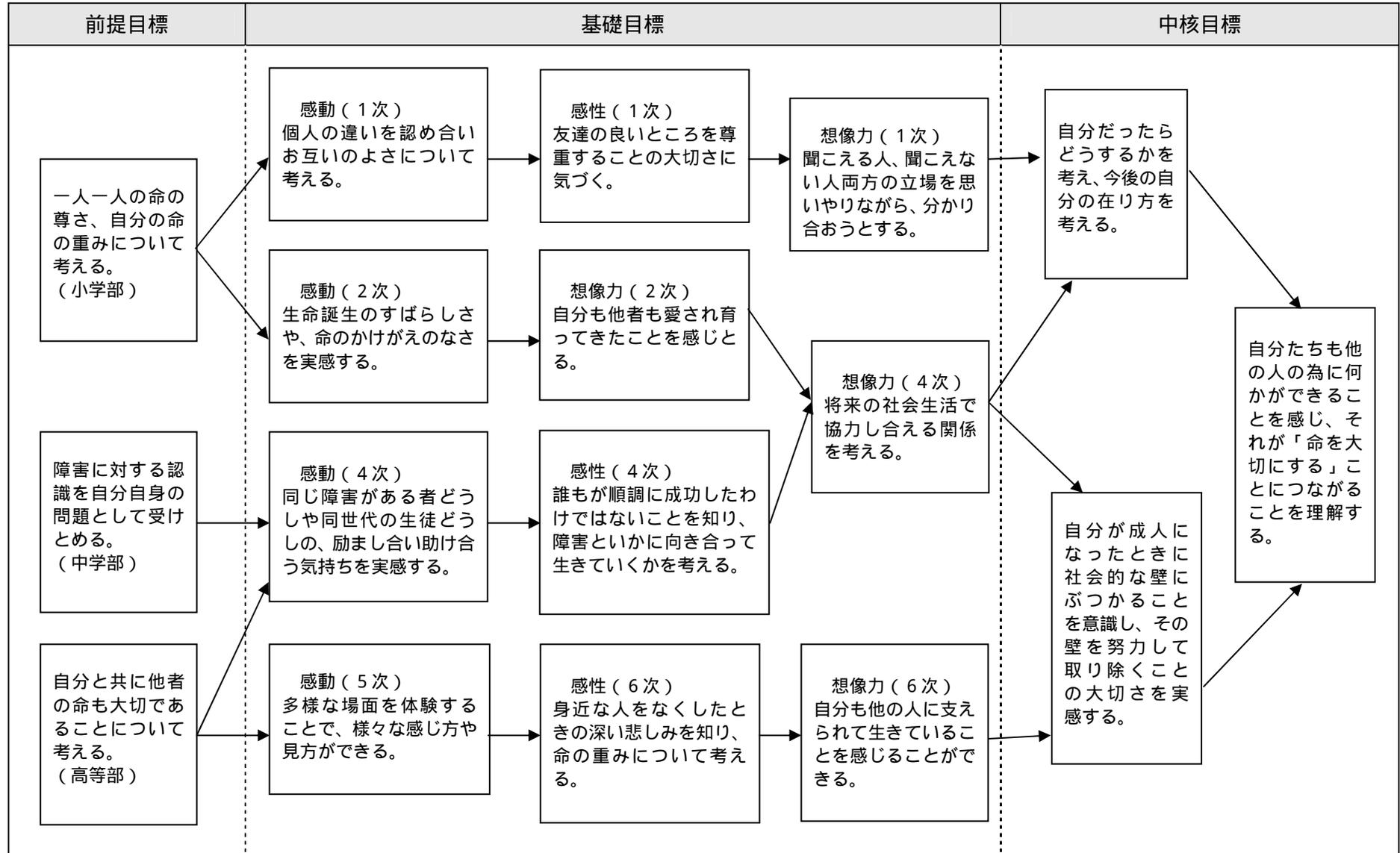
6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	生まれたときの写真やへその緒を見たり、生まれたときのエピソードを聞いたりする。	生まれてきたときと今の体の大きさを比べ、自分の成長に興味を持つ。	出産のときの母親の話を聞き、産んでくれたことに感謝の気持ちをもつ。	自分や友だちの名前にはいろいろな願いがあることに気づく。	
1次 (8時間) 小学部	「自分が好き・友達が好き」 自分の好きなこと、得意なことを紹介する。 友達のいいところがしをする。 ルールを守って仲良く遊ぶ。「お友達を招待しよう」(喫茶店・ゲーム) 聞こえる人、聞こえない人がいることを知り、身近な人はどちらか知る。 お互いの違いを受け止めながら、仲良く遊ぶ。	自分の好きなことや得意なことを発表する中で、自分のよさに気づく。 友達の好きなところ・がんばっているところについて考える。 友達と一緒にルールを守って、ゲームに取り組む。 聞こえること、聞こえないことの違いについて考える。 自分と友達の似たところ、違うところに気づきながら、お互いのよさについて考える。	友達に認めてもらう喜びを感じる。 友達のいいところを尊重することの大切さに気づく。 ルールを守らないと、ゲームが楽しくないことに気づく。 聞こえる、聞こえないの違いがあることに気づく。 自分と同じように友達がいろいろなことに興味を持って取り組んでいることに気づく。	さらに自分の可能性を高めようという気持ちになる。 話し合いをとしてお互いを高めあうことの大切さを実感する。 相手の立場を考えて接することの大切さを実感する。 聞こえる人、聞こえない人両方の立場を思いやりながら、分かり合おうとする。 コミュニケーションがうまくいかないとき、自分の言動を振り返り、友達の気持ちを想像する。	自分のよさを感じ取らせることができたか。 子どもどうしが共感し合えたか。 お互いを認め合って遊べるような支援ができたか。 自分や身近な人の聞こえについて知り、分かり合おうとする気持ちを持たせられたか。 子どもどうしがお互いの違いを受け入れることができたか。
2次 (12時間) 小学部	「聞こえない私が好き」 写真集「ヒトの誕生」を見ながらお腹の中で赤ちゃんが成長していく様子を知らせ、自分たちも大切に育てられたことに気づく。 自分の成長をまとめる。名前の由来を調べたり、難聴がわかったきっかけと両親の思いを知る。 聞こえなくて困ることを考える。 聴覚特別支援学校に通う意味を理解する。	母親からへその緒をとおしく栄養をもらい成長していく様子を知る。 生まれたときの様子や子どものころの写真を見ながら、大切にされてきたことを知る。 自分や友達の名前の由来を聞き、名前には親の願いが込められていることに気づく。 聞こえなくて困った経験について話し合う。 いくつかの選択肢の中で、その学校に入学を決めた両親の願いに気づく。	お母さんのお腹の中で育っていく命の神秘さと尊さに気づく。 自分がこの世でかけがえのない存在であることに気づく。 補聴器をつけ聞こえるようになってほしいという親の気持ちに気づく。 耳が聞こえないことで、友達も自分とよく似た経験・思いを味わったことに気づく。 両親の願いに応えようとする気持ちを育てる。	誕生を待つ母親や家族の気持ちを想像する。 名前を考えているときの親の願いを想像する。大切に育てられたことを実感する。 聞こえたときの親の喜びを想像する。 困ったときの対処法を考える。 普通学級、難聴学級、特別支援学校での学習の様子を想像する。	一人一人の命の尊さに気づかせることができたか。 自分の命の重みを想像させることができたか。 友達の名前の由来にも興味をもたせることができたか。 親の想いが感じ取れたか。 聞こえないために生じる困難に気づき、その対処法を考えさせ前向きに生きようとする気持ちをもたせたか。 両親の願いをふまえて、なぜこの学校に通うのかということを理解させたか。

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
	<p>「ヘレン・ケラー」の伝記を読み、障害を認め努力することの大切さを知る。中学部でがんばりたいことや将来の夢について語り合う。</p>	<p>障害がありながらも、積極的に社会と関わろうとしたヘレン・ケラーの姿を想像し、前向きに生きていくことの大切さに気づく。お互いの夢を聞き合い、共にがんばろうとする。</p>	<p>ヘレンの生き方で、すごいなあと思ったことを考える。自分の得意なことを生かす方法や、自分の短所を克服する方法を考える。</p>	<p>サリバン先生の心情を考え、自分に関わってくれた人たちの心情を想像する。自分が好きなこと、やりたいことについて語る。</p>	<p>厳しい指導の裏には深い愛情が含まれていることに気づかせたか。これからの生活に夢を持たせることができたか。</p>
3次 (6時間) 中学部	<p>セルフポスターづくりをする。</p> <p>友達とケンカになった自分の経験を振り返る。</p> <p>思春期における体の変化について、自分の体の問題として興味・関心をもつ。</p>	<p>友達の様々な良いところや得意なことを知り、友達をいろいろな面から理解する。</p> <p>自分の経験より、どのような方法で友達と仲直りできたかを考える。</p> <p>体の変化の学習では、単に体の形や機能が変わるという知識だけでなく、「妊娠が可能になる」ことに気づく。</p>	<p>友達の「好み、興味、関心」を知ることにより、友達に共感し、より深く知りたいと関心を深める。</p> <p>友達と仲直りできたときの気持ちを考える。</p> <p>「生命の尊重」や「自己の性の自認(受容)」、「大人への自覚」などの心理的な発達観点を踏まえて、生命誕生のつながりに気づく。</p>	<p>友達を理解し、自分にとってどういう意味を持ち、どのように関係を持つべきかに気づく。</p> <p>みんなで遊ぶためには、どのようにしたら良いかを考える。今後、友達と仲良くしていくためには、どのようにすれば良いかを考える。正しい知識の習得は、心の健康や生活と深くかかわることに気づかせる。</p>	<p>学年当初のクラスづくりにおいて生徒の他者理解に役立ったか。</p> <p>自分の行動を振り返らせることができたか。友達と仲直りできたときの気持ちや、今後の自分の行動を考えさせることができたか。</p> <p>体の変化が起こるしくみの学習をとおして、「妊娠が可能になる」ことを理解させたか。</p>
4次 (12時間) 中学部	<p>シャンプー容器の印などのユニバーサルデザインについて知る。</p> <p>自分と同じ障害がある人の活躍や様々な問題点をビデオや体験談をとおして知る。自分と同じ障害がある人の活躍を知る。障害や失敗にくじけず、希望を持って粘り強くやり通す姿勢を持つことの大切さを知る。</p> <p>交流活動 同じ障害がある生徒との交流行事を行う。 同世代の生徒との交流行事を行う。</p>	<p>シャンプー容器の印(側面のギザギザ)に気づく。点字ブロック・ノンステップバスなどの身の回りにあるユニバーサルデザインに気づく。</p> <p>Tさんが子育ての中で、学校にファックスの設置を求めて粘り強く働きかけ、実現させたことを理解する。</p> <p>自分と同じ障害がある人の活躍を知り、障害による困難を克服することに生かす。</p> <p>同じ障害がある者どうしや同世代の生徒どうしで、励まし合い助け合う気持ちを味わう。</p>	<p>ユニバーサルデザインが生み出されるまでの背景を知る。障害の有無に関係なく、すべての人にとって使いやすいものだという事を知る。</p> <p>手話通訳制度を利用するようになったきっかけや、利用する以前と以後の心境の変化を理解し、手話通訳制度の必要性を認識する。</p> <p>障害のある方で、現在活躍されている方が決して順調に成功したわけではないことを知り、障害といかに向き合って生きていくかを考える。</p> <p>仲間意識を再確認する。</p>	<p>世の中には様々な困難を抱える人が生きていることを知る。今後、どのようなユニバーサルデザインがあれば良いか、考える。</p> <p>自分が、成人になったときに社会的な壁にぶつかることを意識し、その壁を努力して取り除くことの大切さを実感する。</p> <p>自分だったらどうするかを考え、今後の自分の在り方を考える。</p> <p>将来の社会生活で協力し合える関係を考える。</p>	<p>ユニバーサルデザインの意義と生まれた背景について、理解させることができたか。</p> <p>障害に対する認識を自分自身の問題として受け止めさせることができたか。</p> <p>作成した資料を用いて、障害の受容や進路意識、生き方などの点について、生徒に十分理解させることができたか。</p> <p>大きな集団で学習することの楽しさや緊張感等を味わい、障害を受け止め、自分のよさを発揮し、コミュニケーションの力を実践的に高めさせることができたか。</p>

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
6次(6時間) 高等部	<p>戦争体験者から話を聞き、沖縄南部戦跡やガマを見学することで、戦争の悲惨さを知り、命の大切さを感じとる。</p> <p>災害や防災に関する正しい知識と生きる力を身につけさせることで、生命や社会について考える。</p>	<p>沖縄の歴史や風土を知る。</p> <p>震災の恐ろしさを実感し、命の重みを感じるとともに、自分たちが今生きていることの素晴らしさを感じる。</p>	<p>聾者の戦争体験者の話を聞いて、沖縄の人々の平和への願いを感じとる。</p> <p>身近な人をなくしたときの深い悲しみを知り、命の重みについて考える。</p>	<p>沖縄の自然・歴史・文化を学ぶことによって、多様な風土や文化があることを知る。</p> <p>災害時や緊急時を想定し、その場面で困っている人のために何ができるのか考える。</p>	<p>現在の沖縄をめぐる問題を知り、平和の尊さについて理解させることができたか。</p> <p>防災の大切さや命の重みを実感し、より良い地域づくりや人間関係づくりのために貢献していこうとする意欲をもたせることができたか。</p>
事後	<p>振り返りを行う。</p> <p>「命の大切さ」実践尺度に記入する。</p>				

7 目標構造図



8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修(実施の時期については、「(2) 指導の概要」の中に明記)

研修内容	
a	自尊感情を高める体験をする。 ・「わたしはわたしが好きです。なぜなら・・・」 ・「ここがあなたのいいところ」
b	「聞こえないって どんなこと」の講習 ・聞こえのしくみ、聞こえの様子、障害を認識させるための支援方法について考える。
c	「コミュニケーションモード」に応じた個別支援 ・聴覚優位グループの支援、視覚優位グループの支援、重複児童の支援法を研修する。
d	命や人権に関する諸問題の研修 ・新聞記事等とおして、命や人権に関する諸問題を学ぶ。
e	交流校職員との事前の打ち合わせ ・交流活動のねらい、生徒の実態について共通理解を図る。
f	コミュニケーション能力を高めるための研修 ・自分の気持ちや考えを相手に伝える力、他者の気持ちを受け止める力を身に付ける。
g	情報の発信の在り方について研修する。 ・相手の立場に立ち、わかりやすく伝える手法について模擬体験をおして学習する。
h	自分自身を知るワークシートについて研修する。 ・自分自身を知るワークシートに記入することで、自分を見つめなおし、理解を深める。
i	沖縄の文化や歴史について研修する。 ・修学旅行資料を活用し、沖縄の文化や歴史(沖縄戦線など)について学習する。

(2) 指導の概要(全50時間) 1・2次(小学部) 3・4次(中学部) 5・6次(高等部)

内 容	
事前	自尊感情を高める体験をする。 教員研修 a
1次(8時間)	小学部 「 <u>自分がすき・友達がすき</u> 」 指導実践 p74~p75 ・自分の好きなこと、得意なことを紹介する。 ・友達の「いいとこさがし」をする。 ・ルールを守って仲良く遊ぶ。「お友達を招待しよう」(喫茶店・ゲームランド) ・聞こえる人、聞こえない人がいることを知り、身近な人はどちらか知る。 ・お互いの違いを受け止めながら、仲良く遊ぶ。
2次(12時間)	小学部 「 <u>聞こえない私が好き</u> 」 指導実践 p76~p77 教員研修 b ・写真集「ヒトの誕生」を見ながらお腹の中で赤ちゃんが成長していく様子を知らせ、自分たちも大切に育てられたことに気づく。 ・自分の成長をまとめる。名前の由来を調べたり、難聴がわかったきっかけと両親の思いを知る。 ・聞こえなくて困ることを考える。 ・聴覚特別支援学校に通う意味を理解する。 ・「ヘレンケラー」の伝記を読み、障害を認め努力することの大切さを知る。 教員研修 c ・中学部でがんばりたいことや将来の夢について語り合う。

3次 (6時間)	<p>中学部</p> <p>友達関係について考える。 指導実践 p78 教員研修 d</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいとこさがし」をし、友達の良いところを認め、他人を思いやる気持ちをもつ。 ・自分の体験をもとに、どのような行動や言葉が相手を傷つけるかを考え、良好な人間関係を築くためにはどうすれば良いか話し合う。 指導実践 p79 <p>異性に対して理解を深める。 指導実践 p80～p81</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「男女平等は家庭から」を読み、男女が分け隔てなく活躍する社会にするためにはどうすれば良いかを話し合う。 ・男女の性器の仕組みとはたらきについて理解し、妊娠のメカニズムを知る。 ・思春期の体の変化によって妊娠が可能になることを認識し、適切な男女交際について考える。
4次 (12時間)	<p>中学部</p> <p>自分の障害について考える。 指導実践 p82～p83</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人や課題を抱えた人が、自分にとって何が必要かを表すことの大切さを確認する。 ・自分と同じ障害がある人の活躍を知り、障害や失敗にくじけず、希望を持って粘り強くやり通そうとする気持ちをもつ。 指導実践 p83～p84 指導実践 p85～p86 <p>成人聴覚障害者の体験談を聞き、様々な問題点(「子育て」「医療」「学校と職場の違い」など)についての知識を身に付ける。 教員研修 e</p> <p>交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ障害がある生徒との交流をとおして、自己の障害に伴う不安や悩みを軽減し、肯定的に積極的に活動する姿勢を持つ。 ・同世代の生徒との交流をとおして、相手を理解し、積極的にコミュニケーションしようとする気持ちをもつ。
5次 (6時間)	<p>高等部</p> <p>相手の立場で考えることができるコミュニケーション能力を身に付ける。 教員研修 f 指導実践 p87～p88</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文を書くことによって、相手の気持ちや自分の気持ちを整理し、相手の立場に立って考えることの大切さを学ぶ。 教員研修 g ・相手の状況(上司、先輩、後輩、友達等)に応じた話し方や言葉遣いについて考えさせる。 ・交流活動をとおして、多様な人々と触れ合うことで、積極的なコミュニケーションの在り方について考えさせる。 <p>子どもの社会性を育む。 教員研修 h</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で生きていくための力を身に付ける。 ・異学年交流や地域交流をとおして、人と触れ合うことの楽しさや集団の一員として役割を果たすことの充実感を味わわせる。 ・奉仕活動を通じて、子どもたち自身が社会に役立つ存在であることを認識し、社会との連帯感の育成や社会生活に必要なルールなどを習得させる。
6次 (6時間)	<p>高等部</p> <p>命の大切さを実感させる学習および体験 指導実践 p88～p91 教員研修 i</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行(沖縄) <p>戦争体験者からの体験談を聞き、沖縄南部戦跡(ひめゆりの塔や平和祈念公園・資料館)やガマを見学することで戦争の悲惨さを体感させ、命の大切さを感じさせる。</p>

9 指導実践

1次 小学部：自分がすき・友達がすき

(1) 第6時

ア 本時のねらい

- ・ふだん仲間と仲良く遊ぶ場面の少ない重複学級の児童がリーダーとなり、交流学級の友達に遊びを紹介する。
- ・互いにルールやマナーを守って楽しく遊ぶ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

ふだんはわからなかった、友達の素晴らしい一面を知らせる。

(イ) 感性を育む

ルールやマナーを守って仲良く遊ぶと、お互いに楽しいことに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

その場その場で、友達の気持ちを想像し行動をとろうとさせる。

ウ 準備物

輪投げ盤、輪3 パターゴルフ、子ども用クラブ、ゴルフボール
 ころころボード、ゴルフボール 輪ゴムガン、的、輪ゴム

エ 先生の準備

遊び屋台の看板、チケット入れ、スケジュール、お茶、テレビ(DVD)

オ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 はじめのあいさつ(A児)	授業前の温かい雰囲気大切に ・重複学級児童どうしにわだかまりがあれば解きほぐす。
展開	2 ゲーム説明と見本 チケット 順に友達を呼び遊ぶ	必要以上の支援をしないで、ゆっくり見守り、成就感、満足感を持たせる。
	B児 (輪投げ)	交流学級の児童には、手伝わずに見守ってくれるように声かけをする。
	C児 (パターゴルフ)	・Bにとって刺激が多すぎるときは環境を整理して提示し、全部させようとしない。促して見守る。
	D児 (ころころボード)	・見通しの持てる物をタイミングよく手渡ししながら、Cの自発的行動を促す。
	VTR(B児) & お茶タイム(A児)	・手話混じり文で交流学級の児童にも理解してもらおうとする気持ちでルールを説明させる。ルールが守られないと、勝っても周囲の共感が得られないことに気づかせる。
A児 (輪ゴムガン)	・わかりやすく説明できるように国語科で口話と手話を練習しておく。 ・必要に応じて声をかけ、別の対応を本人に考えさせる。	

ま と め	3 お礼のことば(C児)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく遊べてよかったこと、これからはまた遊びたいことを、みんなに伝える。 ・全員がそれぞれ認められるように感想を取り上げ、まとめる。 ・これをきっかけにまた遊べるように、時間と場所を設定する。
	4 感想タイム	

カ 児童の振り返り



キ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) ふだんは気づけない長所や頑張りみんなが気づき、温かい拍手を送ってくれてよかった。
- (イ) 共に仲良く遊ぶためのヒントやきっかけが得られてよかった。
- (ウ) 自然な状況ではまだうまく遊びの輪に溶け込めない。教師のさり気ない支援や子どもの心の成長に支えられた、楽しい遊び体験を積み重ねたい。

2次 小学部：聞こえない私が好き

(2) 第10時

ア 本時のねらい

ヘレン・ケラーを支えた周りの人の存在に気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

できた喜びを得るとき等、見守られ支えてもらっていることを知らせる。

(イ) 感性を育む

サリバン先生の願いや心情を理解させる。

(ウ) 想像力の育成

自分を振り返り、自分を支えてくれた人や家族の願いを想像させる。

ウ 準備物 まとめプリント

エ 先生の準備 テレビ(DVD)「ヘレンと共に」字幕つき

オ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 前時の学習を振り返る。 ・サリバン先生がヘレンの家庭教師になることを決めたときの気持ちを確かめる。	・場面を再確認する。 (字幕つき DVD)
展開	2 サリバン先生の気持ちを考える。 スプーンをなげまわる、覚えない、言うことを聞かないヘレンに悪戦苦闘しながら厳しく教えようとしたが、思うように教えることができないサリバン先生の気持ちはじめて「水」とヘレンが指であらわしたときのサリバン先生の気持ち (「水」と指文字で表現できたときのヘレンの気持ち) ヘレンに言葉を教え、付き添っているサリバン先生の気持ち	・サリバン先生の心情を考えることで、自分の小さいときから関わってくれている人の心情は、どんな思いであったのかを感じさせる。 ・ヘレンが「水」と覚えてからの様子と今までの様子の違いにも気づかせる。 ・プリントに書かせる。友達の発表を聞いて自分と同じ気持ち、違う気持ちに感じるのはなぜなのかを考えさせる。
まとめ	3 自分を振り返り、発表する。 ・自分の小さいときに、発音や言葉を親から教えてもらい練習しているとき、なぜ厳しかったのだろうか。	・自分の幼いときを思い出し、厳しい訓練の裏には親の願いや愛情が含まれていることに気づかせる。

カ 児童の振り返り

- ・アニー・サリバン先生は、自分も目が不自由だったけど手術をして 目が見えず、聞こえないヘレンのために死ぬまで付きそって教えたすごい人です。目の見えない人が、こまっていたらわたしも助けたいです。
わたしのお母さんもサリバン先生のように厳しかったけれど今おもえば、わたしのためだったのだなあ。お母さん、ありがとう。

- ・ヘレンが、日本や世界の国へ行くことで、「目の見えない・耳の聞こえない人々に点字・手話を教えたり、目の見えない人のための団体ができたり、障害のある人々にたいする周りの理解や障害のある人々自身に自分のためにも行動をすることが大切だ。」と考えさせたことは、すごい力だなあと思った。
- ・ヘレンは、自分の障害について「わたしは、障害を不幸だと思わない。不便だけど、神様がわたしにあたえてくださったのだから。」と言っています。私も聞こえないことは、不便だけど私も障害があるから同じ聞こえない人の気持ちやいろんな障害のある人の気持ちがわかる。
- ・ヘレンの行動を調べて、私は大きくなったらヘレンみたいにできないけれど、ヘレンが、もっと勉強したいと思ったように私も大学にいったら、先生か教育をする人になりたい。この学校の先生になりたいです。
- ・「わたしは、1人の人間です。わたしは、何でもできるわけではありません。それでもできることは、あります。わたしにできることは、喜んでやるつもりです。」と言うヘレンのこの言葉が、好きになりました。それまでは、私は障害があるから無理だと思っていました。でも、「聞こえなくても私にもできることがあるんだ。あきらめなくてもいいんだ。」とわかってやる気になりました。
- ・「元気を出しなさい。今日の失敗ではなく、明日に成功するかもしれないことを考えるのです。」と言うヘレンの言葉に、わたしは元気と勇気が出てきました。
- ・大阪市立ろう学校の先生が、アメリカにいるヘレンに相談して今の日本の指文字ができたことを知っておどろきました。だから日本の言葉であらわしにくい文字は、アルファベットになっているんだ。今のわたしたちが指文字を使って話ができるのもヘレンのおかげなのだなあ。

キ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- ・ヘレンが理解し始めたときと、それ以前の違いなどから、教えた側にとっても苦労して関わるほどその子に対する愛情、ちょっとした成長の喜びが大きいことを感じとらせることができた。
- ・読み取りだけでなく視覚支援のDVDを活用したので表情や場面の様子を捉えやすく、サリバン先生の気持ちを理解させることができた。
- ・サリバン先生とヘレンの関係を自分に置き換えて振り返らせることで、自分の幼児期の言葉の訓練のときのことを良く覚えていたので、「お母さんが、なぜ厳しかったのか。」と自分を支えてくれた人の心情や願いも気づかせることができた。
- ・インターネットや本から調べ学習をする中で、「ヘレンの生い立ちから世界の国々で講演する様子、ヘレンの偉業とその影響や恩恵、どうしてそのようなことをしようとしたのか。なぜヘレンは学ぼうという意欲が強いのか。」を知ることができ、自分の目標やくじけそうになったこと等、今までの自分を見つめ直すことができた。「自分だってできるんだ。」「障害があるから無理なんだと思わなくていいんだ。」と考えることができ、また「将来やってみたいこと、なってみたい職業」等を考え、これからの自分を高めていこうとする一助になった。
- ・ヘレンの残した言葉を知って、その言葉に勇気づけられていた。その中で気に入った言葉を掲示物にしたので、それを目にするたび「がんばらなくっちゃ。できるんだ。自分も挑戦してみよう。」という自主的な行動が見られた。

3次 中学部：友達関係について考える

(3) 第1時

ア 本時のねらい

セルフポスターづくりをとおして、「いいとこさがし」をして友達の良いところを認め、他人を理解し、思いやる気持ちをもつ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

友達の様々な良いところや得意なことを知り、友達をいろんな面から理解させる。

(イ) 感性を育む

友達の「好み、興味、関心」を知ることにより、友達に共感し、より深く知りたいと関心を深めさせる。

(ウ) 想像力の育成

友達を理解し、自分にとってどういう意味を持ちどのように関係を持つべきかを気づかせる。

ウ 準備物

記入用紙、画用紙、マジック、色鉛筆、マグネット

エ 先生の準備

生徒が他者から肯定的な評価を受けやすいように自分のキャッチフレーズや得意なことを整理しやすいように記入用紙を用意する。

オ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 自分のキャッチフレーズや得意なことなどを考えて用紙に記入して整理する。	・友達に知ってもらいたいことや、自慢したいこと、好きなことなど、友達と話したいことを考えて書かせる。 ・生徒が記入に困っているときは参考になる生徒の意見を板書し、例を示して書かせる。
展開	2 記入用紙を見ながら、自分をアピールするポスターを作る。 3 ポスターができたら、教室の壁に貼って一人ずつ発表する。 4 ポスターを見て、感想を言い合う。	・楽しい雰囲気のパスターになるように描かせる。 ・自分の得意なことや知ってほしいことを発表させる。 ・感想を言い合うときには肯定的な評価をするように促す。
まとめ	5 全員のポスターに各賞を(ビックリしたで賞等)を作り、指導者と一緒に受賞者を決めて表彰し、お互いを認め合う。	・クラスの全員が各生徒の興味や関心のあることを共有し、仲間意識をもたせる。

カ 生徒の振り返り

- ・最初は何を書いて良いかわからなかったが、書いているうちにどんどん書きたいことができて、最後は小さい字になってしまった。
- ・自分の好きな自動車やゲームのアイテムをたくさん描くことができた。
- ・昔、同じところに旅行に行った友達がいた。
- ・同じクラブでがんばろうという気持ちになった。
- ・自分と同じようにペットを飼っている友達がいた。

キ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 学年当初のクラスづくりにおいて生徒の他者理解に役立った。そのことで趣味や所属しているクラブ、家族旅行などの話題で会話する機会が増えた。
- (イ) 発言に消極的な生徒もポスターで表現することで、より多くの内容を伝えることができた。

3次	中学部：良好な人間関係を築くためには
----	--------------------

(4) 第3時

ア 本時のねらい

- ・自分の経験から、自分のどのような行動や言葉で、友達とケンカになるかを考える。
- ・どのようにすれば、友達とのトラブルがなくなるかを知る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分の経験から、どのような方法で友達と仲直りできたかを考えさせる。

(イ) 感性を育む

友達と仲直りできたときの気持ちを考えさせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・みんなで遊ぶためには、どのようにしたら良いかを考えさせる。
- ・今後、友達と仲良くしていくためには、どのようにすれば良いかを考えさせる。

ウ 準備物

短冊、パソコン、プロジェクター、「5年生の道徳」(文溪堂)の「みんなで遊びたいね」のイラスト

エ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 自分の経験から、どのような行動や言葉で、友達とケンカになるかを考える。	・自分の経験をもとに、具体的な例を考えさせる。
展開	2 そのときの気持ちを考える。	・気持ちの発表が難しければ、教師が例を示す。
	3 なぜ、ケンカやトラブルになったかを考える。	・理由をきちんと考えさせる。どのような行動をとったかを考える。
	4 「みんなで遊びたいね」のイラストを見て、どうしたら仲間に入れるかを考える。	・パワーポイントにより、イラストを提示する。自分の考えを引き出せるようにする。
まとめ	5 これからどのように行動すれば良いかを考える。(短冊に記入する)	・これからの行動や自分の気持ちが伝わらないときにどのようにすれば良いかを考えさせる。 ・意見を短冊に書くようにして、これからの約束にする。

オ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 自分の行動を振り返ることができたか。
- (イ) 友達と仲直りできたときの気持ちを考えることができたか。
- (ウ) 今後の自分の行動を考えることができたか。

3次 中学部：異性に対して理解を深める

(5) 第5時

ア 本時のねらい

- ・思春期における体の変化について、自分の体の問題として興味・関心を持たせる。
- ・思春期には、性ホルモンの働きによって性機能が成熟し、女子では卵子が成熟し、男子では精子が形成されることを理解させる。
- ・妊娠が可能になることに気づき、自他の体を大切にする心情を養う。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

体の変化の学習では、単に体の形や機能が変わるという知識だけでなく、「妊娠が可能になる」ことに気づかせる。

(イ) 感性を育む

「生命の尊重」や「自己の性の自認(受容)」、「大人への自覚」などの心理的な発達の観点を踏まえて、生命誕生へつながりに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

正しい知識の獲得は、心の健康や生活と深くかかわることに気づかせる。

ウ 準備物

保健教科書、ワークシート、白紙の紙、マグネット

エ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 思春期の体について考える。 発問 思春期には、男女の体にどのような変化が現れるのか。 小学校のときを思い出して答えなさい。 ・生徒が発言しにくいときは、紙に書かせて黒板に掲示する。 ・生徒の意見を板書する。 板書 思春期に起こるからだの変化 女子 男子	・思春期とは子どもの体から大人の体に変化していく時期のことであることを理解させる。
	2 ワークシートに記入する。	・ワークシートには、板書と教科書を参考に記入させる。
展開	3 体が変わる理由について考える。 発問 何が原因で体は変化していくのか答えなさい。 ・内分泌腺の図を示し、性ホルモンが原因であることを説明する。	・二次性徴とは思春期に現れる男女の体つきの特徴であることを理解させる。 ・体の変化が起こる時期には個人差があることを理解させる。
	4 ワークシートに記入する。	・体の変化は、だれにでも起こることであり、なぜ起こるのか科学的に知っておけば安心できることを理解させる。
	5 性ホルモンの働きと体の変化を考える。	・思春期になると脳の下垂体から性腺刺激ホルモンが分泌されるようにな

	<p>板書</p> <p>体の変化が起こるしくみ 下垂体</p> <p>性腺刺激ホルモン</p> <p>性腺</p> <p>性ホルモン(男性ホルモン、女性ホルモン)</p> <p>体つきの変化、性器の成熟、卵子の成熟、精子の形成</p> <p>発問</p> <p>生殖機能が発達することから、どのようなことが言えるのか。何が可能になるのか。答えなさい。</p> <p>6 ワークシートに記入する。</p>	<p>り、その刺激により性腺(卵巣、精巣)の働きが活発になることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その結果、卵巣からは女性ホルモン、精巣からは男性ホルモンが盛んに分泌されるようになることを理解させる。 ・性ホルモンは、男女の体つきにそれぞれ特徴的な変化を起こしたり、性器を成熟させたりすることを理解させる。 ・発達には大きな個人差があること、悩む必要のないことを理解させる。 ・ワークシートには、板書と教科書を参考に記入させる。
まとめ	<p>7 本時を振り返り、生殖機能の発達が妊娠可能であることを理解させる。</p> <p>8 次時の学習で、「月経、射精から生命誕生までのしくみ」の内容をすることを連絡する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期に起こる体の変化は、新しい生命を生み出すことと関わっていることを理解させる。

オ 生徒の振り返り

思春期の中学生は、性に対する思いが様々である。性の学習を、恥ずかしいという生徒と平気で興味津々の生徒が、同じ教室で学習するのには課題が多い。したがって、両者に配慮しながらの授業展開が必要になってくる。

授業後の感想で、「性の勉強はしたくない」、「性のことは嫌だ」、「恥かしくて意見を発表できない」という女子生徒がいた。反対に異性に対して恥じることもなく、平気で性に関する言葉を発する男子生徒もいた。また、恥ずかしながらも、「もっともっと色々な知識を知りたい」という生徒もいた。

性の問題は、思春期、青年期、そして生涯にわたってかわるので、中学での授業の重要性を踏まえ、性の学習を継続していきたい。

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

思春期の体の変化と生殖機能の発達には深いかかわりがある。内分泌や性ホルモンの働きなどの学習をとおして、思春期の体の変化について科学的に理解することの大切さを学び取らせることができたか。また、発毛などの体の変化や月経・射精などの現象には個人差が大きいことも十分に理解させることができたか。以上の点をおさえることが大切である。

(ア) 性は人が人として生きていく上で、とても大切なことである。恥ずかしいことではないことが理解できたか。

(イ) 体の変化が起こるしくみを理解し、思春期の自分の体の変化していることに気づかせることができたか。

(ウ) 思春期の体の変化が妊娠を可能にし、生命誕生へつながることが理解できたか。

4次 中学部：自分の障害について考える

(6) 第1時

ア 本時のねらい

- ・シャンプー容器の印（側面のギザギザ）が作り出された背景を知る。
- ・身の回りのユニバーサルデザインについて考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・シャンプー容器の印（側面のギザギザ）に気づかせる。
- ・点字ブロック、ノンステップバスなどの身の回りにあるユニバーサルデザインに気づかせる。

(イ) 感性を育む

- ・シャンプー容器の表示の考案者についての文章を読み、ユニバーサルデザインが生み出されるまでの背景を理解させる。
- ・ユニバーサルデザインは、障害の有無に関係なく、すべての人にとって使いやすいものだということを理解させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・世の中には様々な困難を抱える人が生きていることを理解させる。
- ・今後、どのようなユニバーサルデザインがあれば良いか、考えさせる。

ウ 準備物

- ・シャンプー容器の印（側面のギザギザ）の一部を撮った写真と考案者（星川安之さん）についての文章（NHK 現実から学ぶ道徳番組『道徳ドキュメント<1>命ってあったかい』より）
- ・ワークシート

エ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 シャンプー容器の印（側面のギザギザ）の一部を撮った写真を見て、それが何か、考える。 ・写真が何かわかったら前へ出て言う。 ・正解を早く答えた友人から、いろいろなヒントを出してもらって、考える。	・何もヒントは与えず、写真だけ見せる。 ・興味を持たせるようにする。 ・全員が答えるまで待つ。 ・ヒントは先にわかった生徒に出させる。
展開	2 シャンプー容器の印（側面のギザギザ）であることを知り、それが何のためにあるか考える。 3 印の考案者（星川安之さん）について書かれた文書を読む。 4 わかったこと、気づいたことについてワークシートに記入する。 星川さんがユニバーサルデザインの商品を作ろうと考えたのはなぜか？ 5 記入した内容を発表する。	・自分の体験をもとに考えさせる。 ・視覚障害者だけでなく、目の見える人にも使いやすいものであることに気づかせる。 ・意味がとらえにくい生徒には、ヒントを与えたり、説明を加えたりする。 ・ユニバーサルデザインが生み出された背景を知らせる。 ・友達の意見をしっかり聞かせる。

	<p>6 身の回りにあるユニバーサルデザインに気づく。 ・ワークシートに記入する。 身の周りにあるユニバーサルデザインを探してみよう。</p> <p>7 記入した内容を発表する。</p> <p>8 どんなユニバーサルデザインがあれば良いと思うか、考える。</p>	<p>・友達の見解をしっかりと聞かせる。 ・いろいろなユニバーサルデザインが身の回りであることに気づかせる。</p>
まとめ	<p>9 ユニバーサルデザインは、障害の有無や年齢・性別などに関係なく、すべての人に使いやすい商品・デザインであることを確認する。</p>	<p>・障害のある人や課題を抱えた人が、自分にとって何が必要かを表すことの大切さを確認する。</p>

オ 生徒の振り返り

- ・今、改めて考えると、ユニバーサルデザインのものが、身近にはいろいろあるなあと思いました。
- ・袋を開けるとき印？や、携帯電話のパネルの数字が大きいのも、そうだった。
- ・シャンプーのざざざは、自分も気づいていた。でも、視覚障害の人のために考えられたとは知らなかった。

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 身の周りのユニバーサルデザインについて、気づかせることができたか。
- (イ) 自分の生活を、様々な立場の人(障害者・高齢者・幼児など)の視点で振り返らせることができたか。
- (ウ) ユニバーサルデザインの意義とそれが生まれた背景について、理解させることができたか。

4次	中学部：同じ障害がある人の活躍を知る
----	--------------------

(7) 第3時

ア 本時のねらい

- ・自分と同じ障害がある人の活躍を知る。
- ・障害や失敗にくじけず、希望を持って粘り強くやり通す姿勢を持つことの大切さを知る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分と同じ障害がある人の活躍を知り、障害による困難を克服することに生かす。

(イ) 感性を育む

障害のある方で、現在活躍されている方が決して順調に成功したわけではないことを理解させ、障害といかに向き合っているかを考えさせる。

(ウ) 想像力の育成

自分だったらどうするかを考え、今後の自分の在り方を考える。

ウ 準備物 ・NHK「人間ゆうゆう」より「聞こえなくても弁護はできる」
(先天性ろうの弁護士・田門浩さん)のVTRまたはDVD(字幕付)

・ワークシート

エ 先生の準備 VTRまたはDVDを借りる手続き。

オ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 質問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事にはどんなものがあるか。 ・ どの仕事がしたいか。 ・ 聴覚障害があるとできない仕事はあるだろうか。 ・ 聴覚障害者で活躍している人を知っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事の例はなるべくたくさん挙げさせる。したいもの・できないもの・活躍している人は答えられる範囲で答えさせる。
展開	2 聴覚障害者(ろう)の弁護士 田門浩さんについて簡単に紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ VTRを鑑賞する。 ・ ワークシート記入。 [ワークシート最後の項目] <ul style="list-style-type: none"> ・ 田門さんが中学の頃にしたかった仕事は何か。 ・ 田門さんが一番言いたいことは何か。 ・ VTRを見てわかったことは何か。(一つだけ) ・ VTRを見て思ったことは何か。(いくつでも) 以上の点についてお互いに意見交換する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ VTRの補助ワークシートを配布し、随時書き込ませるが、記入にこだわりすぎるとVTRの内容理解が不十分になるので、後で書いても良いことにしておく。 ・ 生徒の理解度に応じて質問する。わかったこととと思ったことについては丁寧に意見を言わせる。
まとめ	3 生徒の意見を中心にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 耳が聞こえなくても弁護士になれる。いろいろな仕事につける。 ・ 田門さんは「自分がそうだったように、聞こえない後輩の力になり、夢を与えたい」と言っている。 ・ この人だけでなく、聴覚障害があっても活躍している人は大勢いる。 ・ 障害があってもそれを乗り越えて生きていくことが大切であり努力と精神力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の意見を尊重してまとめ、不足を補うようにする。将来の生き方へつながるようにまとめていく。

カ 生徒の振り返り

DVDを鑑賞して行動が変わったというわけではないが、聴覚障害があってもできることや仕事はたくさんあるということを知り、自信につながった。

キ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

(ア) ワークシート記入にこだわりすぎるとVTRの内容理解が不十分になる。

(イ) ワークシートは、中学生向けに作成したものだが、障害の受容や進路意識、生き方など内容が多く、生徒が消化しきれない恐れがあるため、注意する必要がある。

(ウ) 生徒が関心をもちにくい分野であるので、興味や関心をもたせるための工夫が必要である。

4次 中学部：成人聴覚障害者の体験談から

(8) 第7時

ア 本時のねらい

成人聴覚障害者(Tさん)の子育ての体験談より、聴覚障害ゆえの障壁とそれを取り除くための努力をすることの必要性を理解し、自分の将来の社会生活での生き方を考えるきっかけとする。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

Tさんが子育ての中で、学校との連絡や担任とのコミュニケーションがスムーズにいかずに困ったことを実感させ、それを克服するために学校にファックスの設置を求めて粘り強く働きかけ、最終的には実現させたことを理解させる。

(イ) 感性を育む

Tさんが子育ての中で、手話通訳制度を利用するようになったきっかけや、利用する以前と以後の心境の変化を理解し、手話通訳制度の必要性を認識させる。

(ウ) 想像力の育成

自分が将来、大人になったときには、いろいろな社会的な壁にぶつかることを意識し、その際にもあきらめず、その壁を取り除くために努力していくことの大切さを実感させる。

ウ 準備物

平成17年度姫路聾学校コミュニティカレッジ 講座「聴覚障害者の子育て」の(手話)ビデオ、(手話)ビデオの要点を文章化したプリント、ワークシート

エ 先生の準備

(手話)ビデオの文章化：手話の読み取りが不十分な生徒に対する配慮のため
ワークシートの作成：生徒に体験談の内容を正確に理解、整理させるため

オ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 聞こえないことにより、今までに情報が入らなかったり、他人とのコミュニケーションが上手くいかなくて困ったという経験とそのときの対応方法を振り返る。	・自分自身の聞こえの状況や聞こえに対する認識、聞こえないことからくる社会的不利益の状態について考えさせる。
展開	2 「聴覚障害者の子育て」の(手話)ビデオを見る。 ・(手話)ビデオを見た後、ワークシートで内容の確認をする。 3 自分の子ども(幼児)に日常生活での通訳をしてもらったこと、そのときの問題点を理解する。 4 手話通訳制度を利用するようになり、その利用の以前と以後の意識の変化について理解する。 5 小学校や担任の先生との連絡・コミュニケーションがスムーズにできるように、小学校にファックスの設置を要求して、粘り強く働きかけ、最終的に実現できたことやそれまでの経緯について理解する。	・(手話)ビデオを通して見た後で、文章化したプリントを読んで、講演の内容を正確に把握させる。 ・ワークシートに取り組み、内容理解ができているかどうか、確認させる。 ・子ども(幼児)には年齢不相応な役割を押し付けながらも、自分は当然のことと感じていたことを把握させる。 ・手話通訳制度を利用するようになって初めて自分は情報不足であることに気づいたことを把握させる。 ・ファックスが設置されるきっかけとなった連絡体制の欠陥のために起こったトラブルについて理解させる。

ま と め	6 ワークシートに本時の感想（聴覚障害者の情報保障の問題や手話通訳制度の利用についての意見など）を書く。	・自分の将来の社会生活の中で直面すると予想される障壁について認識させるとともに、それを克服しようとする強い前向きな気持ちをもつことの必要性を意識させる。
-------------	--	--

カ 生徒の振り返り

- (ア) 聴覚障害者の子育ては、いろいろと大変だということが分かりました。
- (イ) 以前は連絡のために学校にファックスが設置されていなかったようですが、どうしてでしょうか。耳が不自由な人は電話ができないので大変です。そんな人のことをもっと考えてほしいと思いました。今は携帯電話のメールで連絡できるので良くなったと思います。
- (ウ) 子どもの授業参観で生徒たちが手話通訳者の手話ばかり見て、授業に集中せずに先生もお母さんも困ってしまったということが印象に残りました。私も電車の中などで手話で話をしていて、まわりの人から嫌な目でみられたことがありました。そんなことはやめてほしいです。
- (エ) 昔は聴覚障害者の子育てが今よりもっと大変だったことが分かりました。母親の子育てと仕事を両立させることの難しさを感じることができました。自分が大人になって困難なことに直面したときにはTさんのように、あきらめずにがんばってみようと思います。

キ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 成人聴覚障害者のTさんの子育ての体験談は、生徒自身が自分の障害について、さらには将来の社会生活を考えていく上でとても示唆に富んだ内容であったと言える。現在とは社会の情勢も違うところが多いと思うが、Tさんが様々な困難に負けずに前向きに生きている姿勢は生徒たちにとって励みになったと思われる。
- (イ) 生徒たちは自分自身の障害に対する認識がまだまだ不十分な状態であると言える。生徒によっては今回の授業の内容も自分自身の問題として受け止めきれていなかった。これからも学校生活全般をとおして、様々な角度から生徒自身の障害に対する認識を養っていく必要があると言える。

5次 高等部：相手の立場で考えることができるコミュニケーションとは

(9) 第1時

ア 本時のねらい

- ・社会の中で人はお互いに協力し、助け合って生きていることを感じ取らせる。
- ・社会の中でより良い人間関係を築くためには豊かな心や思いやる気持ちをもつことが大切であることを学習する。
- ・相手への思いやりの気持ちを理解することの大切さに気づかせる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

本資料から、おばあさんへのちょっとした、何気ない行動が、おばあさんにとって思いやりとやさしさに満ちた好意であると感じ取らせる。

(イ) 感性を育む

「軽いやさしさ」とはどのようなものだろうか。話し合う中で相手を意識し、気遣う心であることを感じ取らせる。

(ウ) 想像力の育成

自分本位で動くのではなく、相手の立場に立ち、行動しようとする気持ちをもたせる。

ウ 準備物

- ・「自分を考える」 暁教育図書
- ・「心のノート」 文部科学省

エ 先生の準備

「自分を考える」の中で、教材として使用する内容についてのポイントを整理する。

オ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 やさしさに触れたときの体験を話す。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を発表させ、授業へ参加する意欲を高めさせる。 ・発言しやすい雰囲気をつくる。
展開	2 「思いやる心」の言葉の意味を考えさせる。 3 「思いやる心」に関係した内容の感想文を紹介する。 4 相手との関係がいやになったとき、どうするのかについて考えさせる。 (1) 相手に理解してもらえるように話すことを心がけたのか。 (2) 自分の立場ばかり考えるのではなく、相手の立場に立って考えることができたのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表させ、言葉の意味をみんなで考える。 ・おばあさんが感じた「思いやる心」について話し合う。 ・話し合った内容を図でまとめ、意見をまとめる。 ・話すとき、注意しなければならないことはないか、考える。
まとめ	5 人と人とのつながりを考えると、「思いやる心」が大切であることを実感させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がやってもらってうれしいことは他の人もうれしいということを確認する。

カ 生徒の振り返り(授業を受けての感想)

- ・おばあさんが目に涙を浮かべ、感謝しているように思えた。男の子は日頃行っていることをしただけなのに。気持ちがわからない。
- ・どうして、泣くの。何かいやなことがあったのかな。
- ・自分の子どもを思い出したのかな。
- ・なにも思わない。
- ・なに！

以上のような感想が寄せられた。本当に伝えたいことが伝わっていないことに気づかされた。そこで、さらに質問して理解を深めていくことにした。

自分から声をかけず、苦しいときに手を差し伸べてくれた。多くの人は助かったと思うでしょう。そのとき、あなたはどんな気持ちになりますか？

- ・あ～、助かった。
- ・グットタイミング。これで少しは楽になるぞ。
- ・本当にありがたい。
- ・自分一人でもできるのに。ほっておいて。
- ・わからない。

どうして助けてくれたのだろう？

- ・一人では大変な作業と思い、手助けしてくれたのではないのか。
- ・なにげなく、作業している人がいたので手助けをしてくれたのかな。
- ・わからない。
- ・何も思わず、手助けしてくれた。

以上のような発表があった。

キ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

今後の指導にあたり、次のようなポイントに注意しながら学習を進めていくこととした。

- (1) 生徒一人一人が心の豊かさを持てるよう題材を工夫する。
- (2) 家族の一員として、家庭で大切にされていることを感じさせることで心にゆとりを持たせ、自分の好きなところを発表させる。

この授業を終え、生徒たちは、学習していく中で“自分がいやなことは他人もいやだ”と説明することで、どんなことがいやなのか理解することができたように思える。また、自分たちが日常生活の中で、何気なく行っている行為にも、気づかないうちに他人を傷つけてしまうことがある。このことについても感じ取ることができたのではないか。これからの第一歩として、自分の目線を変えなければならないと思う気持ちが大切である。どうすれば相手の気持ちがわかるのかを考えることが、より良い学校生活を過ごすためのより良い人間関係をつくりあげることに繋がるような気がする。

6次

高等部：命の大切さを実感させる

(10) 第1時

ア 本時のねらい

- ・修学旅行で行く沖縄の歴史を学習する。
- ・ビデオ『白旗の少女』を利用して、沖縄戦で多くの民間人が戦争に巻き込まれ亡くなった事実を知り、戦争の悲惨さと命の大切さを学ぶ。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

沖縄戦の経過を調べ、学級新聞として発表させる。

(イ) 感性を育む

ビデオ『白旗の少女』を見て、沖縄戦当時の状況を考え、沖縄の人々の平和に対する願いを感じとらせる。

(ウ) 想像力の育成

戦争がどんなに恐ろしいものかを知り、平和の尊さについて実感させる。

ウ 準備物

ビデオ『白旗の少女』、『修学旅行のしおり 沖縄』沖縄県発行

エ 先生の準備

(ア) 沖縄の歴史に興味を持てるように、前もって生徒各自に学級新聞を作らせる。

(イ) 沖縄戦を含む太平洋戦争の歴史が理解できるように太平洋戦争を説明したパワーポイントの資料を作成する。

オ 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 本時の学習のねらいを知る。 ・各自、学級新聞を作成するために調べた沖縄の歴史を発表する。 ・前もって学習した太平洋戦争について質問する。	・学級新聞の作成指導を通じて、生徒が沖縄について、どれほどの知識を持っているか確認する。
展開	2 戦争についてのイメージを発表する。 3 ビデオ『白旗の少女』を見る。 4 ビデオを見た後、感想を書く。 (1) 沖縄がなぜ戦場になったのか考える。 (2) 少女が経験した戦争がどんなものであったか少女の立場で考える。 (3) 大勢の人が自ら命を絶ったのはなぜか考える。 (4) ガマでのおじいさんのことば「死ぬなんていう言葉を口に出してはいけない。元気をだして、しっかりしなければいけないよ。富子、この世でいちばんたいせつなのは、人の命だよ。」の意味を考え、発表し、各生徒の考えを互いに理解する。 5 沖縄で戦われた戦争がどんなものだったか発表する。	・各生徒の戦争に対するイメージを自由に発表させる。発表した内容を板書し、授業の最後に自分のイメージがどう変わったのか確認させる。 ・字幕入りのビデオを見る。 ・戦争について各生徒が発表、討論することで、戦争に対する考えを深めさせる。 ・命の大切さについて他の生徒の意見を聞くことで、自分の考えを深めさせる。 ・ビデオ鑑賞と沖縄戦についての討論の後、戦争に対するイメージがどう変わったのか注意させる。
まとめ	6 修学旅行で見学するひめゆりの塔、平和祈念資料館と聾者の戦争体験者の講演について簡単に説明する。	・命の大切さと戦争の悲惨さを確認させる。

カ 生徒の振り返り

< 生徒の感想 『白旗の少女』を見て >

・『白旗の少女』を見て、真っ先に思ったことは、よく生きていてよかったです。太平洋戦争中にたくさんの人々が亡くなっただけでなく、自害する人々もいました。そんな中で、少女は必死に生きようとしていました。おじいさんやおばあさんと一緒に死ぬと言っても、「お前だけは生きなさい、後世に伝える必要がある。」とその二人が言っていました。本当に生きるっていうことは、素晴らしいことだと思いました。人生は一度きりなのに、戦争はたくさん命を

奪って・・・勝っても負けても亡くなった人々は帰ってこない。それが戦争の怖さだと思います。幼い少女が一人で生き、助かったのは良かったと思います。あらためて平和の大切さが分かりました。今は平和とは言えないけれど、必ず平和な時代が来ると思います。

- ・少女はいろんな悲劇を見てきたと思います。首里から南へ戦争から逃れながら、たくさんの死者をみてとてもつらかったと思います。日本本土を攻撃するためアメリカ軍は沖縄を焼け野原にし、兵隊や人々が死に急ぐシーンはとても見ていてつらかったです。ガマに隠れても日本軍に追い出され、ただ死んでいくばかり。何の意味もない戦争を繰り返し、大切なものを失っていく。そんなところに腹が立ちました。
- ・沖縄戦はすごく大変だったことが分かりました。特におじいちゃんとおばあちゃんのシーンは驚きました。何で沖縄がアメリカ軍の攻撃を受けたのか。今、沖縄にはアメリカ軍の基地があるけど、沖縄の人々の気持ちはどんなだろうか？9月に修学旅行で沖縄に行きます。戦争のときのいろいろな話が聞けたらいいなと思っています。
- ・家族が七人。平和な日々を過ごしていました。でもアメリカ軍の攻撃が始まると、空襲警報があってびっくりしました。最後の場面では富子が白旗をもって、アメリカ軍の前に出て行きました。そこが一番感動しました。
- ・比嘉富子さんの体験をもとに映像化したもので、前にも見たことがありました。でもやはり怖かったです。お父さんと別れ、弟が撃たれて死に、姉と別れてしまう。さみしかったと思います。沖縄は日本に復帰しましたが、アメリカ軍の基地の75%が沖縄にあります。沖縄も日本も平和であり続けてほしいと思います。

<生徒の感想 修学旅行での平和学習について>

- ・ガマに入る前に、総合案内センターでガマについての紙芝居を見て本当に涙が出そうになりました。ガマの中に入って見て途中から真っ暗になって私たち聴覚障害者にとって音が聞こえないだけでなく見えないことは少し、怖かったです。上から落ちる水滴を靴で受けて飲んだと聞いてびっくりしました。ガマにはかまどや井戸があって、今の生活と全然違って戦争中の苦労が分かりました。戦争ではアメリカ軍の爆撃や銃の乱射や手榴弾で、多くの人々が亡くなったことを聞き、私たちは今の平和を大切にしていきたいと思いました。
- ・普久原さんの戦争の話聞いて、とてもつらい思いをされたことが分かりました。僕たちにたくさん戦争の話(アメリカ軍の飛行機が来たのであわてて逃げたことや、アメリカ軍に見つかる困るので赤ちゃんの口にタオルを入れたこと、食べ物を探るために歩き回ったこと、捕まったとき、響のこどもと分かってお菓子をもらったこと)などを教えていただきました。とても大変だなあと感じました。
- ・ガマでガイドを担当してくれた具志堅さん、お元気でしょうか？ガマは暗く足場が悪くて進みにくかったです。戦争当時使われた場所の説明や当時どんなことがあったかよくわかりました。自分たちでは想像できない現実をガマで初めて知ることができました。戦争は勝っても負けても死んだ人は帰ってこない。これが戦争の恐ろしさなのかなと思いました。僕たちはここでいろいろなことを学べたと思います。
- ・平和学習のとき、響で戦争を体験された普久原さんに来て頂いて、沖縄戦の話聞きました。手話の読み取りが難しかったけど、最後まで一生懸命お話を聞きました。戦争で大変なことがたくさんあり、攻撃されてたくさんの方が亡くなったことを聞いて、かわいそうだと思います。平和ということの大切さをあらためて感じました。ずっと平和が続くといいなと思います。
- ・ガマに入って見て、真っ暗でとても怖かったです。日本軍の怪我した人々が置き去りにされて寂しくて泣いたんだろうと思いながら歩きました。僕は今の平和な時代に生まれてきて良かったと思います。感謝してこれからの人生を大切に生きようと思っています。



キ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 小説『白旗の少女』を読んだとき以上に、映像で表現された沖縄戦に強い衝撃を受けた。主人公の富子さんを含めて、多くの一般人がいやおうもなく戦争に巻き込まれたことに、憤りを感じた。極めて厳しい環境におかれた聾者の戦争体験を聞くことに、恐ろしささえ感じている。
- (イ) 生徒に対して、再度、各自が沖縄について調べたもの、ビデオ『白旗の少女』を見た感想文をまとめた学級新聞を読ませた。

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

本校は聴覚障害の幼児、児童、生徒が在籍する学校である。補聴器の機能がよくなり、また近年には人工内耳の普及も進み、聞こえにくさが軽減されつつある。しかし、やはり社会の中で「聞こえにくい」という現実を認識することで、自己否定をしてしまう児童生徒も多い。その子どもたちに対して「自己肯定感」を持たせ障害を前向きに捉え、自分も大事にし、自分を支えてくれる家族、仲間感謝の気持ちを持ち、社会の中の人々と共に生きることの大切さを学んで欲しいと願っている。それが本校でなすべき「命の大切さ」の教育と考える。

それぞれの年齢にあわせたプログラムを実践していく中で、小学部では友達と仲良くすることの楽しさ(他人を尊重すること)、ヘレンケラーの生き方を知り、自分にもできることがいっぱいあること(自己肯定感をもつこと)、母親に生まれてきたときの様子や気持ちを聞くことで自分が愛されていること、産んでくれた母親への感謝の気持ち(感謝・思いやり)などを実感させることができた。

中学部では思春期を迎える年齢にあわせて、異性に対しての理解や思いやりを中心におき、体のしくみや生命誕生にふれ、「大切な命」を考える大きな契機となり、生徒たちは真剣に「命」について「異性」について受け止めようとする様子が見られた。また、障害を自分自身の問題として受け止め、いかに向き合っていくのか、同じ障害がある人の活躍を知り、希望を持って粘り強くやり通す姿勢を持つことの大切さを考えさせ、将来の社会生活で協力し合える他者の「大切な命」を考える機会になったと思う。

社会に出る最終学部である高等部では、自己実現をめざし、社会の一員としてどう生きていくべきか、相手の立場に立って考えることはどういうことなのかを真剣に学習していった。特にコミュニケーションの面で不安を抱える生徒も多く、自分を理解してもらおうコミュニケーションの在り方、相手の立場に立ったコミュニケーションの在り方について生徒どうして論議が進んだ。また、沖縄への修学旅行では、聾者の戦争体験の話聞くことで、平和や命の大切さ、かけがえのない命を実感することができ、社会に出るにあたり「平和」「命」を広い意味で考える良い機会となった。

今回の実践をとおして、障害に向き合い、自己肯定感を持ち、人と人とのつながりを大事にする気持ちがそれぞれの年齢の児童生徒に芽生えている様子が見受けられた。今後もこのプログラムを継続的に実践していきながら「命の大切さ」を深める学習を進めていきたい。

(2) 今後の課題

今年度は、「人とのつながり」から「命の大切さ」をテーマに、それぞれの年齢を考慮した教育プログラムを立て実践した。それぞれの学部において「命の大切さ」について実感し、「命を大切にすること」をつなげたと思う。今後は、自己肯定感や生きる意欲を高めさせ、生きる力につながるような「命の教育」を継続させていきたい。

11 参考・引用文献

- ・DVD 『ヘレンと共に』字幕つき 学研 1994
- ・『5年生の道徳』 文溪堂
- ・真仁田昭・新井那二郎監修 『聴覚障害者の子育て』
- ・『自分を考える』 暁教育図書
- ・文部科学省 『心のノート』
- ・シェイラ・キッチンジャー/文 松山栄吉訳 『おなかの赤ちゃん』 講談社 1986

「人とのつながり」から考える「命」(県立姫路聴覚特別支援学校)

- ・ヘレンケラー / 著 岩橋武天 / 翻訳 『わたしの生涯』 角川文庫 1988
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター 『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集』 2007
- ・小貫悟・名越斉子・三和彩 『LD・ADHDへのソーシャルスキルトレーニング』 日本文化科学者 2003
- ・ビデオ NHK 『人間ゆうゆう』より「聞こえなくても弁護はできる」 2001
- ・財団法人全国ろうあ連盟監修 『聞こえないってどんなこと 聴覚障害者 25人それぞれの生き方』 一橋出版 1998
- ・NHK 『道徳ドキュメント<1>命ってあったかい』より「使いやすさを広めたい」 2008
- ・文部科学省 『中学校 学習指導要領』 2008
- ・財団法人日本性教育協会編 『中学校版 すぐ授業に使える性教育実践資料集』 小学館 2007
- ・比嘉富子 『白旗の少女』 講談社青い鳥文庫 2000
- ・伊波園子 『ひめゆりの沖縄戦』 岩波ジュニア新書 1992
- ・沖縄県 『修学旅行のしおり沖縄』 沖縄観光コンベンションビューロー 2009